

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

令和7年度

法人名	社会福祉法人勸使会	代表者	松井 樹
事業所名	くっかけの家	管理者	松田 美和

法人・事業所の 特徴	個々のニーズに合わせて通い・宿泊・訪問サービスを家庭的な雰囲気の中で適宜提供している。また積極的にレクリエーションや外出行事を企画し、楽しみのある毎日を過ごしていただいています。
---------------	---

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	3人	人	1人	1人	人	4人	人	

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	新規のご利用者が増えていく中で円滑な運営ができるよう、新規利用時にできる限りの情報共有を行っていく。そのためのアセスメントの活用を通して、新たな気づきを共有できるようにしていく。	利用者情報を共有することでより本人への理解が深まり、援助やアプローチに生かしていくことができた。	日頃の様子やどのようにご利用者を受入れられているか、安全面にどのような配慮しているのか具体例を示してもらえるとわかりやすい。	新規のご利用者様の状況を出来るだけ細かく把握し、より本人へのアプローチが具体的に・個別的に設定できるように努める。カウンセリングにて本人の情報共有を行っていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き施設内の整理整頓・環境整備を継続的にを行い、随時見学や困りごと相談ができる施設であることをPRしていく。	立地や知名度としてなかなか気配に立ち寄るところまでいっていない。今後も関係性を作っていく地道な活動が必要と思われる。	町内で行われているイベント、行事はほとんどないので、もう少し広いエリアでののかかわりを増やして行く方向を考えてはどうか。	地域で暮らす利用者の支援を近所の人との関係性も考えながら支援していく。また外出の機会も設けてグループで外出する楽しさを感じてもらおう。
C. 事業所と地域のかかわり	地域との交流を少しずつでも構築していく。為、地域の方が気軽に立ち寄っていたような日頃からの働きかけや工夫を大切にしていきたい。	外出の機会も設けていくことが出来た。地域の生活が中心にあるためそこでの関わる人に対して情報共有をする機会もあった。	地域で心配な人は包括支援センターに相談しているの、そのことの連携を進めていってはどうか。	地域で暮らしている人の支援を検討するたために包括支援センターの職員にも推進会議に参加してもらい地域の情報共有を行っていく。
D. 地域に外向いて本人の暮らしを支える取組み	これからも地域への情報収集に努め、建物内で生活の場が済むことがないよう、外出を通じて利用者が社会参加できるように働きかけをしていく。	推進会議内での写真を用いて日頃の様子を見ていただくなどわかりやすい会議に努めていくことができた。	町内での防災訓練はないので、施設で行われている防災訓練に住民が参加するという形も検討してはどうか。	消防訓練に参加していただき、実際に消火訓練も体験してもらおう事でより一層の理解
E. 運営推進会議を活かした取組み	推進会議を通して地域の取り組みについて情報共有を行うことで、地域に対する事業所の役割や今後の活動を探っていく。	地震訓練時などのような避難をするのかを実践することや周知することができた。また備蓄品などの確認や周知することができた。推進会議参加者に防災訓練を見学していただいた。		
F. 事業所の防災・災害対策	BCPへの理解力をつけるため、様々なシチュエーションを想定した実践に基づく訓練を定期的に行っていく。			